

戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間：木曜 15 時～17 時)

I. 『ネオコンの論理』に対する反論

1. ホッブズ的世界とカント的世界

自然状态的無秩序を生み出したのはアメリカ自身ではないか？

- ・アフガニスタンとビンラーディン
- ・イラクとサダム・フセイン

2. アメリカ外交は首尾一貫しているか？

単独行動主義と孤立主義の間

冷戦後におけるウィルソン外交再評価の流れ —— 「国際主義」？

3. アメリカとヨーロッパの間

どちらが「理想主義者」でどちらが「現実主義者」なのか？

II. ツヴェタン・トドロフ, 大谷尚文訳

『イラク戦争と明日の世界』法政大学出版局, 2004 年

1. 戦争の理由 —— ジョージ・ブッシュの主張 (2003. 3. 17)

- ・その 1 —— 大量破壊兵器は存在したのか？
核兵器、生物兵器、化学兵器... サダムは何故使わなかったのか？
- ・その 2 —— イラクはテロリストを支援していたのか？
サダム・フセインが支援していたのはカミカゼ・パレスティナのみ？
- ・アメリカは単に石油が欲しかっただけなのか？
それとも、ブッシュの再選のため、父親への対抗心、ユダヤの陰謀？
- ・他者に自由民主主義を押しつけようとしているのか？
「自己のための安全」と「他者のための自由」は両立するのか？

2. 新原理主義者

- ・アメリカ合衆国に課せられた「使命」 cf. ジョージ・ケナンの「封じ込め」
「新保守主義者」よりも「新原理主義者」という名が相応しい
- ・20 世紀における共産主義革命の輸出に似ている？
フランス革命の理念や 19 世紀の植民地主義にも？
- ・ジョージ・オーウェルの新言語の傑作 —— 「人道的な戦争」

3. 帝国の危うさ

- ・「予防戦争」という新戦略 (2002.9.20) —— イラク戦争は最初の事例
独裁政治の転覆と民主主義の確立という目標
- ・テロリズムに対して勝利をおさめたか？
- ・殺人はどこまで正当化されうるのか？
民間人と軍人との区別は意味があるか？
- ・アメリカ自身の民主主義を損なっていないか？
パトリオット・アクト (愛国者法) (2001.10) の制定

情報操作の危険性 —— イラクの核をめぐる偽情報？

4. 多元主義礼賛

- ・モンテスキュー(1689-1755) —— 無際限の権力は正当ではありえない
三権分立、政党と情報源の多元主義、他の諸国家の主権尊重... etc.
- ・カントの天使的ではない結論
「諸国家の共存の方を、他の国家を凌ぐ大国のもとで結合することよりも」、「多様性から帰結する闘争にもかかわらず」諸国家間に確立する均衡の方を、帝国によって押しつけられる決定的な平和よりも好む

5. 力、それとも法？

- ・安全保障理事会におけるフランスの主張 (2003.3)
ドミニック・ド・ヴィルパンの演説 ——
コンセンサスと法の尊重のみが力に対して必要な正当性を付与する
- ・ジャン・ジャック・ルソー (1712-1778) の嘆き
内政と外交の違い —— 社会の状態と自然の状態
- ・国連の抱える矛盾 —— 安保理常任理事国5カ国の「拒否権」
公正さ、有効性、そして正義
- ・「法による平和」でもなく「帝国による平和」でもなく
第三の道 —— 多様性の選択 → 明日のヨーロッパ

6. 静かなる大国

- ・アメリカを非難しながらアメリカに軍事的に依存
力がないならアメリカに服従すべきなのか —— 東欧の「十カ国宣言」
- ・アメリカの庇護を放棄するべきか？ —— スイスやオーストリアのように
軍備撤廃は平和の保障とならない？
- ・ヨーロッパもまた、力を付けるべき —— 多元主義の軍事大国へ
「静かなる大国」 —— アメリカという「帝国」を抑制するために

7. ヨーロッパ的価値観

- ・ヨーロッパ的アイデンティティー —— 欧州は「古い」のだ！
合理性、正義、民主主義、個人の自由、非宗教性、寛容... etc.
- ・ヨーロッパ的理念のために死ぬこと —— ヨーロッパ人の兵士？

8. 体制を適合させる

- ・具体的な方策 —— あくまでも慎重に → 幾つもの同心円によって囲まれた欧州
 - ① 中核的小グループ —— 欧州連邦の域へ！
ドイツ、ベネルクス三国、フランス、イタリア
 - ② 欧州連合の円 —— すなわち、現在の形態 (25カ国 → 35カ国)
一定レベルの経済発展、法的な保証、自由民主主義
 - ③ それを超えて広がっていく円
ロシアやマグレブ諸国は入らないが関係は強化される

III. 『イラク戦争と明日の世界』に対する疑問

IV. 次回の指定文献について： ノーム・チョムスキー著、鈴木主税訳

『メディア・コントロール — 正義なき民主主義と国際社会』集英社新書(190), 2003.

V. 第1回レポート締切： 5月14日(金)の授業。2000字程度